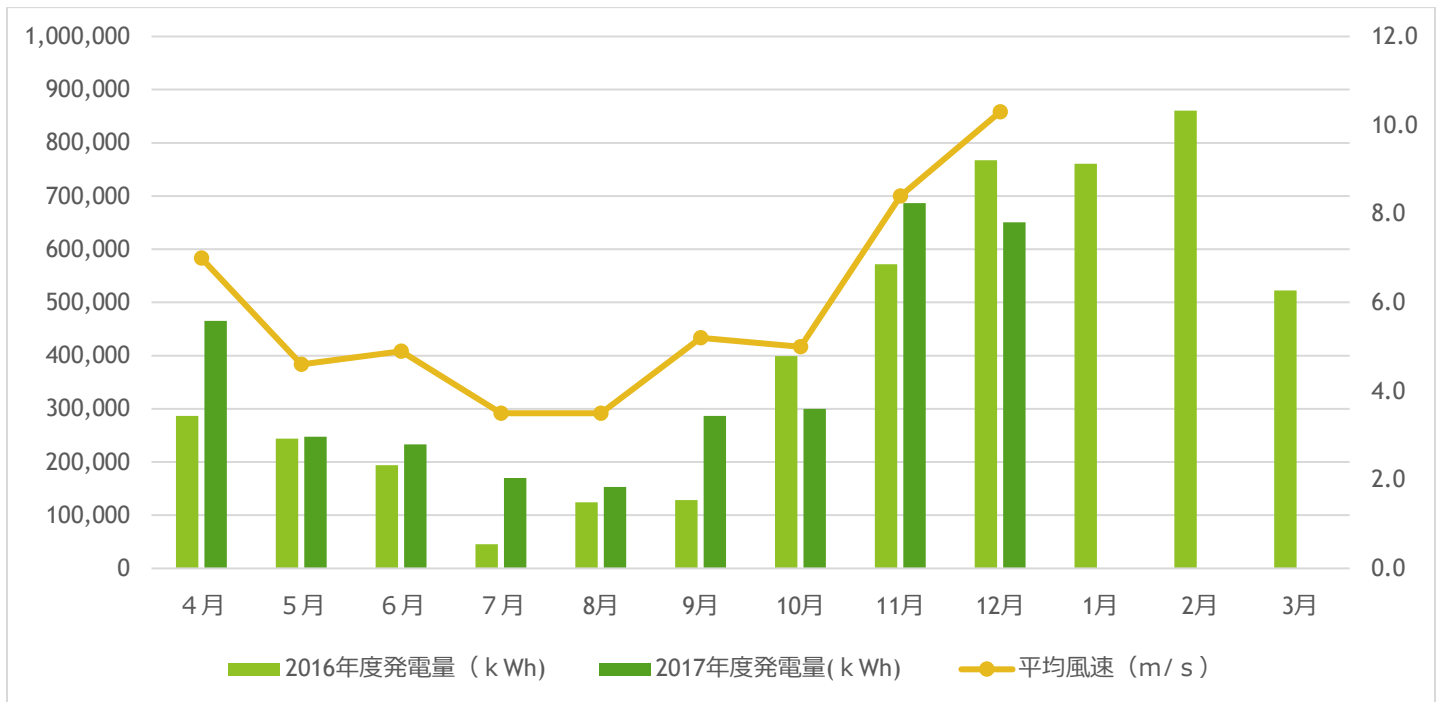


秋田県にかほ市に生活クラブ東京・神奈川・埼玉・千葉が建設した生活クラブ風車「夢風」に関するニュースをお届けします。

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町 1-6-9 大内ビル3F 一般社団法人グリーンファンド秋田

発行責任者 半澤彰浩(代表理事) 編集責任者 西村明子

○ 発電実績



風車「夢風」運転状況について

- 風況は昨年同月と比べて1.5m/s高い実績でした。
- 東北電力要請の解列が5回、計8日ありました。(解列とは、電力会社からの要請で、電力系統から発電設備を切り離すことを言います。風が吹いていても、風車を停止する必要があり、遠隔または現地対応で操作しています。)

解列要請の時間以外には稼働させるなど設備を十分に利用したことで発電量は前年比 84.8%となっています。

	発電量 (kWh)	平均風速 (m/s)	稼働率 (%)
4月	465,321	7.0	92.6
5月	247,330	4.6	84.5
6月	233,257	4.9	82.9
7月	170,227	3.5	84.9
8月	153,380	3.5	97.9
9月	286,896	5.2	95.0
10月	300,077	5.0	95.8
11月	686,714	8.4	94.8
12月	650,687	10.3	80.5
1月			
2月			
3月			

人と自然が中心の未来社会にむけた希望の年に！

グリーンファンド秋田代表理事 半澤彰浩(生活クラブ神奈川専務理事)



新年あけましておめでとうございます。昨夏は生活クラブ風車「夢風」建設5周年記念イベントを「にかほ市」の風車サイトでおおぜいの参加で行いました。地元の方たち、生活クラブの方たち、応援していただいている方たちが一堂に会して、初対面でもにぎやかに会話を弾ませ、歌を聴きながら泣いたあの熱気を私は忘れません。この風車を縁に広がった関係、人のつながりを更に広げていきたいと思いました。

世界と日本の自然エネルギーを取り巻く状況を見てみますと、2016年度の日本の自然エネルギーによる発電量は14.8%（大規模水力含む）まで増加しましたが、世界全体では24.5%と自然エネルギーに大きくシフトしています。世界では自然エネルギーによる発電コストが化石燃料による発電コストより下がり、経済的にもメリットがあることから、自然エネルギーへの大幅なシフトがすすみ雇用も生み出されています。しかし、日本では政府が原発再稼働や石炭火力などに固執しているために、EUでは常識になっている自然エネルギーの「優先接続」「優先給電」ではなく、将来の原発再稼働を見込んで、今は空きのある送電線への自然エネルギーの接続を制限するというとんでもないことが起こっています。

2018年を迎えた日本をみなさんはどのようにみますか？人口減少、格差貧困、原発再稼働、地球温暖化問題、再び戦前に回帰するような憲法改定など不安なことばかりが目立つ社会に見えませんか？

夢風の取り組みは自然エネルギーを広げる取り組みではありますが、自然エネルギーを道具として地方と都市の市民同士のつながり、結びつきを通じて新しい関係性による地域経済、地域社会づくりの可能性を示していると内外から高い評価を受けています。

夢風は今年の4月には稼働7年目を迎えます。自然と共存し、地域の資源を活かして、私たちはどのように次の社会をつくっていくのか。人が持つ力、人と人がつながることで生まれる大きな力を礎にして、子どもから大人まで誰もが生き生きと過ごせる未来社会、100年先を想像してつくっていく。そうしたことに明るく、楽しくチャレンジしていきたいと思えます。

今年は、にかほ市で「自然エネルギー基金条例」も始まる予定です。また、自然と向き合い、人と向き合い、地域と向き合いながら、これからの暮らしを自らの手でつくっていかうと、自然エネルギーによる地域再生に取り組む「人たち」を描いたドキュメンタリー映画「おだやかな革命」の劇場公開もスタートします。私たちの「夢風」の取り組みも、この映画の中で描かれています。ぜひ、みんなで見にいきましょう。本年もよろしくお願ひ申し上げます。



自然エネルギーによる地域再生。これからの時代の「豊かさ」を巡る物語。

2月3日よりポレポレ東中野ロードショー他順次全国公開予定。

にかほ市と生活クラブとの連携推進協議会幹事会報告

2017年12月22日（金）10:30よりにかほ市役所象潟本庁舎にて、2017年度第1回連携推進協議会を開催しました。

まず、共同代表の須田正彦にかほ市副市長、半澤彰浩生活クラブ神奈川専務よりご挨拶をいただきました。主な議案は、生活クラブ風車「夢風」の稼働状況、2017年度連携推進協議会の活動の中間まとめと2018年度方針案、生活クラブ風車建設5周年イベント開催報告、にかほ市の特産品取り組み報告、平沢小学校での環境教育実施報告、(仮称)高森風力発電所建設に向けた進捗状況です。「夢風」稼働報告では、4月～11月までの総発電量は、2,543,202kWhで前年比127.5%と順調に稼働していることを確認しました。

夢風ブランド開発生産者連絡会報告

2017年12月22日（金）13:30より、にかほっと多目的室にて、2017年度第1回夢風ブランド開発生産者連絡会を開催しました。

最初に会長の（有）三浦米太郎商店の三浦悦朗氏よりご挨拶をいただきました。主な議案は、にかほの産物の風車建設5周年記念取り組み報告と今後の対応について、2017年度生産者連絡会の中間まとめと2018年度方針案、栄養成分表示についてです。2017年度は、6月より新たに加わった「はたはたおいる漬け」と、「純米大吟醸 夢風」「タラーメン醤油味」「鱈しょっつる」「べっぴんさんいちじく」の6品目の夢風ブランド品の取り組みを進めています。また、風車建設5周年記念取り組みとして、夢風ブランド品に加えてにかほの産物の「象潟うどん」「無添加甘酒」「鱈の甘露煮」「いちじく羊羹」、「麴漬炙りはたはた」「えびっこ炙り」「風車の見える街サブレ」「干し青さ岩のり」の取り組みを行い、好評でした。

にかほ市情報

にかほ市役所観光課の方にかほ市にまつわる情報を隔月でいただいています。

秋田県にかほ市観光課の阿部と申します。5回目の今回は本市で行われる冬のイベントを偉人と共にご紹介します。

にかほ市金浦地区では毎年1月28日に「白瀬中尉をしのぶ集い」が行われます。この日は、日本で初めて南極を探検した金浦出身の白瀬矗(しらせのぶ)率いる白瀬南極探検隊が、明治45年に南緯80度05分、西経156度37分に日章旗を立て、見渡す限り一帯を「大和雪原(やまとゆきはら)」と命名した日です。

毎年この日には子どもから大人まで多くの市民が白瀬中尉の偉業を称え、雪中行進を行います。南極の寒さとは比べものに



なりません、降りしきる雪の中を歩くと、少年時代からの夢を叶えるために努力と苦勞を重ねた白瀬中尉の心がいかに熱く、強かったかを実感することができます。雪中行進の後には南極に関する講演会が行われ、子どもたちの夢を広げるきっかけとなっています。

白瀬中尉は11歳の時に寺子屋の先生から探検家を目指すために教わった五つの戒め(酒を飲まない、煙草を喫わない、茶を飲まない、湯を飲まない、寒中でも火にあたらない)を生涯守り通しました。現代でさえ簡単なことではありません。

夢を追い続けた白瀬中尉の足跡を記録した「白瀬南極探検隊記念館」は夢風から約2kmの所にあります。本市へお越しの際は是非お立ち寄りください。

教えて！小林さん 風車基礎知識

NPO 法人北海道グリーンファンドの小林ユミさんに風力発電の基礎知識を隔月で執筆していただいています。

自然エネルギー100%を目標に掲げるイニシアチブ「RE100 (Renewable Energy 100%)」をご存知でしょうか。RE100は2014年に始まり、Google、アップル、IKEA、ナイキなど日本でも良く知られた世界的企業が117社賛同し、事業活動で使う電力を100%自然エネルギーにすることを本気でめざしています。参加企業は欧米にとどまらず中国やインドの企業にも広がっています。日本の企業では2017年4月にリコーが加盟し、10月に積水ハウス、12月にはアスクルと3社が加盟しました。アスクルは業務車両をすべてEV(電気自動車)に転換するEV100にも同時に加盟しています。



このような自然エネルギーを求める動き呼応するかのようになり、昨年10月、世界の風力発電の累計導入量は500GW(ギガワット)=5億kW(キロワット)を超えました。風力発電といえばドイツ、アメリカ、デンマークという印象が強いですが、近年では中国が世界を牽引し、インド、ブラジル、トルコ…そして洋上風力では日本と同じ島国イギリスが大きく伸びています。中国の風力発電の導入量は1億6873万kWです。2010年にアメリカを追い越してから世界一の座を譲らず、豊富な国内需要を背景に中国の風車メーカーは活況を呈しています。一方で日本の風力発電導入量は336万kW、第19位です。風車メーカー3社のうち三菱重工は陸上風力から撤退し主に海外の洋上風力へと軸足を切り替えています。

その一方で風力事業を地場産業に育てていこうという動きが国内にもあります。みなさんの「夢風」が稼働する秋田県では、豊富な風資源を県外大手資本にほぼ独占されてきました。この「風」を地域振興につなげるため、県内企業が金融機関などとともに風力発電会社を設立し風力発電事業をはじめています。秋田県では2003年から市民風車に取り組んできた株式会社市民風力発電も、市民風車で得た風力開発・保守のノウハウを地域還元するため参画しています。秋田県も風力発電を産業振興、雇用創出の機会と捉え、県内企業の新規参入を後押ししています。風車は電力をつくるだけでなく、夢風のように都会と地方をつなぐ架け橋にもなります。こうした地域の風車が増えることが日本にはまだまだ必要です。日本に良い風を吹かせていきましょう。